



「CSR特集」  
 各国・地域におけるガラス寄贈活動  
 旭硝子株式会社

AGC（旭硝子）グループは、各国・地域において、ガラスの寄贈を通じて地域社会の発展を支援しています。

日本では、2005年より、防災ガラスの普及を通じて地域社会の安全対策を推進する「ガラスパワーキャンペーン」を実施しています。その一環として、これまで35の自治体に地震、突風、台風などの自然災害発生時に効果のある防災ガラスを寄贈しています。2014年2月には、竜巻による甚大な被害を受けた埼玉県越谷市へ寄贈しました。指定避難場所であるそれぞれの小学校体育館では全ての窓ガラスが防災ガラスに交換され、自然災害時の安全性が高まりました。

また、インドネシアでは、現地グループ会社のアサヒマス板硝子社が、2013年に自動車用ガラスを製造するチカンベック工場周辺の寺院や警察署へ145m<sup>2</sup>のガラスを寄贈しました。これらの施設を利用する地域住民の方々により快適に過ごしていただくことで、地域社会の発展に貢献しています。

さらに、欧州では、現地グループ会社のAGC ガラス・ヨーロッパ社が、2013年2月に発生した隕石落下の被害を受けたロシア・チェリャビンスク州の病院・教育施設に2,000m<sup>2</sup>のガラスを寄贈しました。その他、被災地域へのガラス供給量を優先的に増やすなど、迅速な復旧を支援しました。



越谷市役所での寄贈式（日本）



礼拝堂への寄贈の様子（インドネシア）